



「中学生と乳幼児親子のふれあい交流授業」

実施報告

多摩市立青陵中学校の3年生（約30人の3クラス合計約90人）が、家庭科授業の一環として、たまっこの「子育てひろば」で乳幼児親子と交流しました。この「ふれあい交流授業」は、未来のママやパパとなる中学生に、子育ての楽しさ、大変さ、子どものかわいさ、おもしろさを伝える目的で、青陵中学校の先生方とご相談させていただきながら準備を進めました。

参加して下さった親子は、3日間でのべ52組109人！

参加したママたちにとっても、地域の中学生との交流を通じて得るものがたくさんあったようです。皆様、ご協力ありがとうございました。

交流授業後の中学生の感想と、参加した乳幼児の保護者の感想を抜粋してご紹介します。

（実施日 2018年10月16日、17日、23日）



乳幼児の保護者の感想

◆わが子が楽しそうで嬉しかった！

- 最初は息子も人見知りで話せずにはいましたが、優しく声かけしてくれたおかげですぐに打ち解けて楽しそうに遊んでいました。
- 男子生徒が絵本を子ども目線に合わせて読んでくれた。ブロック遊びも女子生徒と一緒にしてくれた。子どもと目を合わせてくれることで、子どもも安心したようでした。もう少し時間があればもっと仲良くできたと思います。楽しい時間をありがとうございました。
- なかなか会うことのない年代のお兄さん、お姉さんとの関わりは、すてきな刺激になったと思います。
- しっかりと遊んでくれ、娘も良い経験になったかなと思います。ありがとうございました。
- とても良い子たちで、漠然と「中学生になったら純粋さもなくなってスレてしまうのかな」と不安に思っていたのですが、優しい態度に安心しました。

◆普段交流する機会のない中学生との交流が新鮮！

地元中学の雰囲気わかって安心した！

- 地元の中学生と普段なかなか話すことができないので、とても貴重な体験でした。
- 地域の中学生がこんなに良い雰囲気だと分かり、安心したし、嬉しかったです。
- 中学生はまだまだ子どもっぽいのかと思っていましたが、3年生にもなると大人らしく、気遣いもしてくれるので感心しました。





まだしゃべれないから、何を考えているのかわからないから最初は どうやって接したらよいのかわからなかったけど、ブロックを一緒に作ったり、たくさんしゃべりかけたりしていくうちに、一緒に遊んでくれたりしたから、一緒に遊んだりたくさんしゃべりかけるといいんだなと思った。いろいろなことを聞いてよかったです。大人になって子どもができれば、今日聞いたことを思い出して育てられたらいいなと思いました。



体験を通して感じたことは、赤ちゃんにも一人一人個性があるということです。将来、保育士になりたいので今日学んだこと、感じたことを生かしていければいいなと思いました。



子どもを育てるのはとても大変なことがたくさんあるのだと改めて感じました。小さいものは口に入れたり、立ったとしてもバランスが崩れて転んでしまったり、旦那さんに対するストレスがたまったり、いろいろと話してくれました。けれど、そのストレスの解消は、子どもと遊び、かわいいところを見ることだと聞いて、大変な分子供によってなおるのだとわかりました。



子どもが生まれると今までの生活が一気に変わってしまう。それに母も父もとても大変で苦労をかけているとわかりました。昔自分もそのように苦労をかけていたんだと感じ取ることができました。



保護者の方も不安を抱え、子育てをしているんだなと感じました。逆に質問していいですか？と聞いて「親にしてもらって良かったことは何ですか？」ときかれ、不安があるんじゃないかと思いました。だからこそ、たまっこなどの施設を多く利用し、色々な所で地域で協力しているんじゃないかと思いました。



小さい子はこわかった。けれど、自分も小さい時にこうだったと思うと、なんか面白いと思った。



子どもが2人以上いる家庭は1人の家庭よりさらに大変なことが増えるので、いかに効率よく家事を行えるかがカギだなと思った。小さい子は、手も足も頭も柔らかいし、背も私たちより全然小さいので、優しく視線を合わせて会話をするのが大事だなと思った。



子どもを育てるのは大変なことなんだと改めて思った。職場体験の時と比べて、保育園に行っていない子だから人に慣れていない感じがした。お母さんに大変なことを聞いて、親は子供を守らないといけないから大変だなと思った。みんな子どもを大切にしていた。自分が母親になる時はちゃんと育てて守ろうと思った。



赤ちゃんはとてもかわいく将来欲しいと思った。赤ちゃんは繊細で「危ない」ということがわからないので、できるだけそばにいて教えたり助けたりしなくてはならない。自分が結婚したときに少しは赤ちゃんの世話をしようと思った。赤ちゃんがいるだけでその場が明るくなる。赤ちゃんは親の生きがい。



僕は小さい子があまり好きでなく、泣かせたりしてしまったらどうしようと思っていたのですが、子どものほうから寄ってきて接してくれたので子供が少し好きになりました。



幼児交流を通して人間はなぜ今の自分のように成長していくのかという疑問を持てた。





親は大変なことをして自分を育ててくれたことに感謝したい。また、自分が交流したお母さんは「お父さんと協力して子育てをできていない」と言っていた。お父さんは仕事で忙しくお母さん一人で育てているという。自分は子育てをできるようにになりたい。赤ちゃんは赤ちゃんになったつもりで接するとけっこう興味をもってくれた。



幼児は親の気を引こうとしたり、くっついて離れなかったりと様々な行動をして、それに対応している親はとてもすごいと思った。小さい子供は生まれた時からしばらくすると物をつかめるようになり、何でも口に入れようとしたりするので、危ない目に合わないようしっかり目を離さないようにしなければいけないとわかった。自分にもあんな時期があり、それを苦勞して育ててくれた親に改めて感謝したいと思った。



幼児と交流してみて赤ちゃんの小さいながらもあふれんばかりの生命力を感じることができた。私はあの30分だけでかわいさに胸が押しつぶされそうになった。私たちもああやって育ったのだと思うと、覚えていないから不思議な気持ちになった。子育てはお母さんから聞いた話からもわかったが、とても忙しく慌ただしく、大変だと思う。



赤ちゃんは自分が思っていた以上に不思議でかわいかった。
自分にもこういう時期があったんだと思った。

でも子どもが成長していくときにはそれ以上のくらべものならないほどのうれしさや喜びがあるから私たちは育ててもらえているのだと思う。はやくお母さんになりたいと思った。



子どもを育てることの難しさを体感した。
将来僕に子どもができれば愛情をこめて育て大切にしていきたいです。



1歳くらいの子は抱っこしようとするとき泣いてしまうイメージがあったが、今日幼児交流をして、相手の子がとても人懐っこく進んで近づいてきてくれたので驚いた。



赤ちゃんは言葉で返してくれなくてもちゃんと伝わっているということがわかった。

ほとんど泣かずに元気だった。抱っこしてみると、とても体温が高く思っていたより力強かった。

「おいで！」と言ったら、両手を広げてヨチヨチ歩いて寄ってきてくれてうれしかったし、かわいかった。話しかけたらじっと見てきて、つみきなどで完成したら拍手して、1回1回楽しんでた。笑顔で笑いかけたら、すごい笑顔で返してくれた。



身近に小さい子がいないので、すごく貴重な体験でした。自分は家族の中での立場は下なので、自分より小さい子に仲良くしてもらえるか不安でした。しかし、ハイタッチして笑顔を向けられた途端、可愛くてしょうがなかったです。



私たちよりはるかに小さい子たちが意志をもってそれぞれ考えて行動していると思うと何か不思議でおもしろいなと感じました。

今私たちが絶対にしないような行動も、幼かったころにやっていたんだなと考えさせられました。前に授業内で見た映像の子のように、単純な動きばかりしている様子が目の前で見られました。

また、小さい子はたった二つや三つしか年の差がないのに全く違い、幼い子の成長は素晴らしく、おそろしいなと思いました。



親ごさんは成長するのはうれしいがさみしいとも言っていて、親の手を借りずにできるようになるのがだんだんさみしくなるのかなとも思った。



幼児についてたくさんのことを学ぶことができた。会ったとき、恥ずかしそうにしていたけど、慣れてくるとキャーキャー言いながら楽しそうに遊んでいた。周りの小さい子たちに比べてよく動かし、好き嫌いがはっきりしている感じもした。移動が速くてついていくのがとても大変だった。車と車をぶつけて遊んだりすることは今までなかったから、楽しい遊び方が増えて楽しそうにしていたので、すごくやりがいを感じた。



言葉が通じない小さなこどもでも、目を見て笑って話していれば、0歳の赤ちゃんでも言葉がわかるかのように笑ってくれた。ふだん、あんなに小さい子達とふれあう機会がないので、家庭科の授業でこういう体験ができてよかった。

やっぱり言葉が通じて話すのが楽だけれど、言葉が伝わらなくてもこっちの気持ちがわかったみたいに赤ちゃんが笑っているのを見て、言葉が伝わらなくても会話はできるし、楽しいんだと思った。

子育ても大変さもよくわかったけれど、子どもが一つできるようになったり、新しく覚えたりすることがとてもうれしいことでもあることがわかり、子どもについて色々学べたのでよかった。

